

# 台北医学大学への訪問視察報告

森山 美香<sup>1</sup>, 阿川 啓子<sup>1</sup>, Pei-Shan TSAI<sup>2</sup>,  
Hsiao-Yean CHIU<sup>2</sup>, Megan F. LIU<sup>2</sup>, Fu-Yean CHIU<sup>2</sup>,  
Chueh-Ho LIN<sup>2</sup>, Hui-Chuan HUANG<sup>2</sup>, Li-Chung PIEN<sup>2</sup>

## 概 要

本学の看護栄養学部においては、2019年に台北医学大学 (Taipei Medical University : TMU) と国際交流のための協定が締結された。看護学科のカリキュラムでは一般教養の文化と医療分野で異文化研修Ⅲ (台湾) が配置され、令和7年度から開始となる。また、TMUと本学との共同による国際研究を推進することが期待されている。今回は異文化研修Ⅲ (台湾) の科目プログラムの具体的な内容および国際研究の可能性を検討することを目的にTMUを視察した。今回の視察では、①TMU看護学部関係者とのCollaboration Meeting, ②病院見学, ③コミュニティセンター見学を行った。①TMU看護学部関係者とのCollaboration Meetingにおいて、異文化研修および共同研究は提案した内容に理解が得られた。今後の課題として、異文化研修では研修における病院や施設の見学の目的、教育方法の明確化、研究では、価値観の違いや言語の問題などが挙げられた。

キーワード：台北医学大学, 異文化研修, 国際交流, 視察

## I. はじめに

島根県立大学 (以下、本学) では、「豊かな教養と高い専門的知識及び技術を備え、北東アジアをはじめとする国際的な視野を持ちつつ地域に貢献し、創造性豊かで実践力のある人材を育成するとともに、地域に知の還元を行うことで、地域社会の活性化及び発展に寄与し、さらに国際社会に貢献する」ことを目的に掲げ、学生および教員の国際交流を推進してきている。本学の看護栄養学部においては、2019年に台北医学大学 (Taipei Medical University : TMU)

と国際交流のための協定を結び、学術交流を進めることとなった。看護学科では令和4年度のカリキュラムにおいて、一般教養の文化と医療分野で異文化研修Ⅲ (台湾) が配置され、令和7年度から開始となる。また、教員間ではTMUとの共同による国際研究を推進することが期待されている。そこで、これらの実施に向けて、TMUを視察し、異文化研修Ⅲ (台湾) の具体的な内容および国際研究の可能性を検討したので報告する。

## II. 台北の概要

台北は、人口が約250万人(2023年9月現在)<sup>1)</sup>、政治や経済、文化、物流の中心地として台湾最大の都市である。高層ビルが建ち並んでいる表

<sup>1</sup> 島根県立大学

<sup>2</sup> 台北医学大学

通りは、大都市というイメージ通りである一方、大通りの裏に回ると、露店が並ぶ昔ながらの路地や古い廟が残されているなど、新旧が混沌としながらも入り混じっている都市である。南北に走る中山路、東西に横切る忠孝路を中心として昔から区画整理が進んだ街並みは、街歩きにはとても分かりやすい構造になっている。台北の地下鉄（捷運）は台北MRTの通称と呼ばれ、簡単な料金表の見方や切符、悠遊カードの買い方を覚えれば、初めての旅行でも利用しやすい。台北は主要観光地やレストランなどが狭い範囲に密集している都市であるため、長い移動の心配がない。台北市内には、松山空港と桃園国際空港の2つがあり、市街地に近いのは、松山空港である。桃園空港は、市街地から台湾MRTで30分程度かかるが、台北駅で、搭乗手続きや荷物を預けることができるため、移動での不便はあまり感じない。

### Ⅲ. TMU の概要

TMUは1960年に設立された私立大学である。11学部と6つの病院（大学病院、萬芳医療センター、双和医院、台北癌センター、台北神経医学研究所、新国民医院）から構成される。TMUは「人間性、誠実さ、革新、協力、奉仕」を基本理念として、世界各国の著名な研究機関と協力しながら、教育プログラム、医療提供、トランスレーショナルリサーチの発展に貢献している<sup>2)</sup>。

今回視察をした看護学部は、1963年に5年制短期大学として発足して、1994年には学士の学位が授与されるプログラムが設立、2007年に老年健康管理学部が設置された。大学院は、1995年に看護学研究科に修士課程、2016年に博士課程、2018年に老年学・介護修士課程が設置され、高齢者看護の専門知識を有する専門職の養成に努めている。TMUは看護学の進歩と医療の質の向上のために、医療従事者の教育と研究・臨床における学術活動のプログラムの作成に取り組んでいる。

また2022年度のQS世界大学ランキングでは看護学部は38位と評価されている<sup>3)</sup>。

### Ⅳ. 異文化研修Ⅲ（台湾）の科目概要

異文化研修Ⅲ（台湾）の科目概要を以下に示す。

#### 1. 授業概要

本科目の目的は、台湾での1週間の研修を通して、台湾の文化、緩和医療事情などについて学ぶことである。また、大学や医療施設の見学、研修先大学生との交流等を行う。具体的には地理的・社会的背景に近い台湾と交流することで、台湾の保健医療福祉、看護職の役割と活動および看護師教育の状況などについて学び、日本との共通性や違いについて考える。特に、台湾の文化的な背景を踏まえ医療について学び、地域における看取りについての視野を広げる。

#### 2. 対象学年と開講時期

看護学科4年次生で春学期に開講する。

#### 3. 研修内容

研修内容は未定であり、今回の視察により、詳細を検討する。

### Ⅴ. TMU 視察の概要

#### 1. 目的

1) R4年度カリキュラムの異文化研修Ⅲ（台湾）（看護学科4年次生春学期予定）の日程と教育内容の検討と台北医学大学教員との交流を行う。

2) 国際研究の可能性を検討する。

#### 2. 期間

2023年3月19日(日)～3月21日(水)

#### 3. 視察スケジュールと内容

視察日程および内容は、表1に示すとおりである。

4. 本学の授業内容や研究に関する説明と視察内容  
本稿では、①TMU看護学部関係者とのCollaboration Meeting、②病院見学、③コミュニティセンター見学について報告する。

1) TMU看護学部関係者とのCollaboration Meeting

(1) Collaboration Meetingの参加者(写真1)  
TMUの護理學部（看護学部）からは、

表1 視察スケジュール

月日	内 容
3月19日(日)	移動(21時台北到着)
3月20日(月) 10:00~12:00  13:30~15:00 15:00~17:00	Collaboration Meeting 島根県立大学の看護基礎教育, 地域を基盤とした教育の紹介 異文化研修Ⅲ(台湾)(案)の紹介(阿川) 共同研究(案)の紹介(森山) キャンパスツアー 台北医学大学(Taipei Medical University: TMU)病院視察 場所: ICU, ER, 緩和ケア病棟, 看護部
3月21日(火) 10:00~12:00	コミュニティケアセンター視察 コミュニティケアセンターの紹介 台湾における介護制度, 地域資源の紹介
3月22日(水)	移動(9時台北出発)



写真1

学部長, 副学部長, 教員4名(高齢者看護/病院幹部, 高齢者看護/ホームナーシング施設長兼務, コミュニティヘルスナーシング, インターナショナルプログラム担当教員), 担当事務職1名が参加した。本学からは, 異文化研修Ⅲ(台湾)の科目担当者2名が参加した。

- (2) 島根県立大学の看護基礎教育, 地域を基盤とした教育の紹介(図1)(阿川)

担当教員から本学の看護基礎教育および地域を基盤とした教育内容についてスライドを用いて紹介した。看護基礎教育では日本の看護教育課程および本学の看護学科の沿革, 本学が力を入れている地域を基盤とした教育の一例として, 地域・在宅看護論の講義において学生が, 地域住民の生活している場に出向き, 食事, 住居環境などの暮らし, 地域にある病院などの医療資源,



図1

銀行, 商店, 交通機関など生活に必要な不可欠な資源について探索し, 暮らしが住民の健康にどのような影響を及ぼすのか, そしてどんな看護が必要なのかということ考察する「地域に向いて暮らしを知る」という教育について説明をした。TMUの看護基礎教育では, 本学同様の訪問看護師との同行訪問のみで, 本学で実施している「住民の暮らしの動線に入る看護」の教育は実施していないということであった。

今後の課題として, 日本と台湾では文化的背景が異なるため, 両国の文化的視点を取り入れたナラティブアプローチの看護が理解できるような教育方法を検討し, 双方の学生にとって学びの多い授業にする必要がある。

- (3) 異文化研修Ⅲ(台湾)スケジュール(案)の提示(阿川)

本科目の研修目的, 対象予定者, 研修時期, 3泊4日の研修スケジュール等(表2)

表2 異文化研修Ⅲ（台湾）スケジュール（案）

台湾 台北異文化研修スケジュール 2021年度以降

→変更となる可能性あり

	1日目	2日目	3日目	4日目
午前	7:30 出雲空港現地集合  8:30 出雲空港発 → 9:20 伊丹空港着  伊丹空港→関空 バス移動 	9:00 大学寮発 バス移動   9:30 台北医学大学  紹介など	9:00 大学寮発 バス移動   9:30 台北市内ナース ングホーム見学  11:00 九份（九ふん） ツアー バス移動 	6:30 大学寮発 バス移動   9:00 台北発 台湾桃園国際空港 → 12:50 関空着
午後	関空にて昼食 14:00 関空発 → 16:00 台北着 台湾桃園国際空港 バス移動   台北市内観光 現地踏査   	昼食  講演① 「食の安全(仮題)」 栄養学部 楊素卿 教授  講演② 「少子高齢化時代の 台湾(仮題)」 看護学部 ○○教 授  台北医学大学付属病 院見学  緩和ケア病床の見学	昼食     バス移動 夜市体験    	関空にて昼食  関空→伊丹空港 バス移動   18:15 伊丹空港発 → 19:00 出雲空港着 現地解散
夕方	101 レストラン 夕食	台北医学大学学生交 流会 夕食	夕食	
宿泊	大学近くのホテル	大学近くのホテル	大学近くのホテル	

参加者：看護栄養学部10名  
引率教員：2名

を提案した。研修目的は、①台湾の文化を理解する、②台湾における“安寧緩和医療法<sup>4)</sup>”、“患者自主権利法”についての現状を理解する、③在宅看取り率の高い台湾における在宅看護に関して理解することである。この目的に沿って研修内容を説明した。

TMUからは提案に関して、今回の視察後の修正についても協力すると説明があった。また、研修プログラム等を担当する教員、および、TMU病院やTMU施設の紹介があった。TMUでは現在、在宅医療センターのビルを建設中であり、今後さらに在宅医療に関して充実した組織になる紹介があり、そこでの研修も可能であることも提案された。その他、TMUは、博士前期課程、後期課程において海外留学生を受け入れており、英語のみの授業も構築していることから、教育に関する国際的な視点でのディスカッションもプログラムに導入して取り組むことも可能であることも説明された。

今後の課題として、今回の視察訪問では、研修日程や内容を説明したのみであり、研修における病院や施設の見学の目的をより明確にする必要がある。

(4) 共同研究（案）の提示（森山）

共同研究のテーマを「台湾と日本における蘇生処置不要（Do Not Attempt Resuscitation, 以下 DNAR）、アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning, 以下 ACP）に関する比較研究（案）」とし、共同研究として実施可能な内容について、担当教員の専門性および両国の社会的背景の視点から、①日本と台湾の法律・制度に関する比較（図2）、②ICU入室患者・家族の特徴、③DNARの意思決定支援を行うICU看護師の困難感の3つを踏まえ提案した。TUMからは、台湾においても高齢化が進み、ACPやDNARを含む事前指示（Advance Directive, 以下 AD）についての関心は高く、共同研究に関して前向きな回答を得た。帰国後にクリティカルケア看護師を対象に実施した終末期ケアの認識、事前指示に関する論文<sup>5)</sup>の提供があった。

今後の課題として、研究を進めるにあたり、生活の中で実践されている看護については、それぞれの国の価値観の違いが影響することから、それが障壁と考えられる。また言葉の問題が挙げられる。教育現場では英語でのコミュニケーションが可能であるが、臨床現場においては中国語でのコ

## 終末期医療相關法律・制度：台湾和日本的比較

	台湾	日本
事前意願關連法	安寧緩和医療法 患者自主権利法	無（指南中規定）
代理人的指定	必須	沒有規定必須指定,建議指定
代理人的條件	20歲以上/ 2級以內的親屬	家人等可靠的人
喪失能力 沒有事前意願 有家屬	主治醫師與一個親屬 （家庭成員或20歲以上的親屬）協議	主治醫生、醫療・護理團隊與家屬 協議
喪失能力 沒有事前意願 沒有家屬	2名或更多專家確定患者已身患絕症, 以患者最佳利益為出發點的醫學判斷	主治醫生、 或醫療・護理團隊
醫療照護諮詢（ACP）	指定醫院實施可能 （必須至少邀請一名家庭成員參加）	建議諮詢家庭醫生
事前意願書的 情報共有系統	存入衛生福利部門數據庫後，醫保卡登記	建議為自己和家人保留一份， 並給家庭醫生或護理人員一份副本。

図2 共同研究（案）の提示

コミュニケーションが必要となるため、ディスカッション等においては、中国語・日本語・英語の3言語が必要となる。

## 2) 病院見学

看護学部副学部長の案内でTMU 附属病院の外科系ICU, 救急外来および緩和ケア病棟を見学した。病院見学の視点は、①日本とシステムの比較, ②ICUにおけるDNARおよびACPに関する現状, ③TMU 附属病院との連携の可能性の3つであった。

### (1) 外科系ICUの見学

外科系ICUでは、看護師長とスタッフ看護師1名が見学に対応した。看護師長からICUの看護体制(病床18, 看護師44名), 面会方法(1回/日, 30分/回), カルテシステム, 薬剤管理などについて説明があった。看護体制, 面会方法, カルテシステムはほぼ日本と同様であった。薬剤管理は誤薬防止対策としてオートメーション化されていた。

ICUにおいてもその人らしい最期を迎えられるよう終末期医療の意思決定を支援することが重要な課題となっている。特にICUにおいては患者が治療や疾患に伴い意識がなく、患者本人の意思が尊重されにくいことが多く、日本のICU看護師には困難感がある。患者の意思決定に関する支援について、日本における現状との比較するために、TMUの教員より選定された外科系ICUにおいてACPやDNARの意思決定に関する現状および看護師の役割, 困難感について、看護師長およびスタッフ看護師にインタビューをした。その回答は以下のとおりであった。

- ① DNARの事前指示を持っている患者はICUに入室はしないで、一般病棟に入院となる。
- ② DNAR等に関する説明はICUの医師が行い、看護師はフォローする役割で、インフォームドコンセント時に同席し、家族からの質問に対応する。家族からは看護師に対し、たくさん意見や質問があ

る。

- ③ DNARの意思決定支援において看護師にはあまり困難感はない。

### (2) 救命救急外来の見学

救命救急の部長が見学に対応した。部長からは、看護体制(43名, 3交代制), ベッド数(10床), トリアージ(5段階)レベル, 重症者に応じたベッド管理, コロナ患者の受け入れ方法などの説明があった。

### (3) 緩和ケア病棟の看護管理部門の見学

TMU 附属病院看護部の看護部長と副看護部長が対応した。台湾では安寧緩和法制定されていることから、その法律による臨床現場への影響に関する質問に対して、医師や国民の考え方の変化, 医師の麻薬の使用方法の統一などがあると説明があった。

教育では、新人看護師に対するコミュニケーションを含む5日間の研修や、看護師に対して、1回/年, DNAR等に関する教育(事例検討, 家族とのコミュニケーションなど)を実施していると説明があった。

これらから、日本とのシステムの相違点の理解, 安寧緩和医療法の有無や民族性を考慮したACPやDNARに関する意思決定について、教育や研究が可能であると考えられる。

## 3) コミュニティケアセンター視察

参加者は、TMU 看護学部高齢者看護担当教員1名, 施設長, 看護師1名, 介護士1名であった。施設長からコミュニティケアセンターの概要, 台湾における介護制度, 地域資源について説明があった。

### (1) コミュニティケアセンターの概要

今回訪問したコミュニティケアセンターはTMU 関連施設であり、台北エリアの約50%を担当している。コミュニティセンターの職員は、利用者向けのイベント健康体操(TMUの看護学生も参加あり), 健康教育, 認知症予防, 介護予防教室などの実施や、居宅へ訪問し創傷処置や糖尿病の方への健康管理などを実施していた。

(2) 台湾における介護制度，地域資源

高齢者施策は，健康，急性期，長期対象者に大別され実施されている。介護レベルは8段階に区分され，日本のケアマネジャーのような職種は存在せず，病院のケア管理センターの看護師による調整で，生活・暮らしをサポートしている。ケアセンター（台北市：13カ所存在）の機能は次の4つである。

- ① コミュニティ資源の開発
- ② コミュニティの住民への教育
- ③ 協力者（支援者）への教育
- ④ 複雑なケースについては，担当者が協働して介入

以上より，日本と台湾の比較により暮らしが健康に与える影響などを含む人間理解と対象者への看護を理解することが可能であると考えられる。

2023.8.27.Science Portal Asia Pacific 台北医学大学. <https://spap.jst.go.jp/resource/university/1040030.html>

- 3) 台北医学大学看護学部 .2023.10.16.<https://www.tmu.edu.tw/>
- 4) 笹川記念保健協力財団. 台湾の「安寧緩和医療法」および「患者自主権利法」のポイント. <http://www.cape.bun.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/05/cc176617b0905231564bca58e1756ffb.pdf>
- 5) Mu-Hsing Ho, Hsiao-Chi Liu, Jee Young Joo, et al. Critical care nurses' knowledge and attitudes and their perspectives toward promoting advance directives and end-of-life care. BMC Nursng, 2022; 21, 278, 2023.8.27. <https://doi.org/10.1186/s12912-022-01066-y>

## VI. まとめ

今回の視察の目的は，異文化研修Ⅲ（台湾）の具体的な内容および国際研究の可能性を検討することであった。視察し意見交換をすることで，研修に対する理解が得られ，可能な研修内容と検討課題が明確となった。また国際研究においては台湾においても終末期医療に関する関心が高く，提案した研究テーマでの共同研究は可能であることがわかった。今後は，教員間での交流を継続しながら，課題を解決し，研修および研究を進めていくことが必要である。

## VII. 利益相反について

本報告に関する利益相反はない。

## 文 献

- 1) 臺北市民政局. 2023.10.16. [https://ca.gov.taipei/News\\_Content.aspx?n=8693DC9620A1AABF&sms=D19E9582624D83CB&s=EE7D5719108F4026](https://ca.gov.taipei/News_Content.aspx?n=8693DC9620A1AABF&sms=D19E9582624D83CB&s=EE7D5719108F4026)
- 2) 国立研究開発法人科学技術振興機構.

# **A Report on Visit and Observation to Taipei Medical University**

Mika MORIYAMA<sup>1</sup>, Keiko AGAWA<sup>1</sup>, Pei-Shan TSAI<sup>2</sup>,  
Hsiao-Yean CHIU<sup>2</sup>, Megan F. LIU<sup>2</sup>, Fu-Yean CHIU<sup>2</sup>, Chueh-Ho LIN<sup>2</sup>,  
Hui-Chuan HUANG<sup>2</sup>, Li-Chung PIEN<sup>2</sup>

---

<sup>1</sup>The University of Shimane

<sup>2</sup>Taipei Medical University